

支 部 情 報

周南 支部

豊かな人間性を育むための
道徳教育の充実をめざして

周南市では、「私たちが輝く元気発信都市 周南」の創造に向けて、心豊かに、快適に、安心して暮らし、生き生きと、ともに活躍できるまちづくりを進めている。そして、各学校において、本市の目標達成に向け、特色を生かした取組を推進している。

周南市小学校長会は、平成十六年四月一日に誕生し、本年度は小学校三十校で構成されている。月一回程度の定例会をもち、研究課題に沿った研修や外部講師による指導講話、経験豊かな特色ある学校運営を展開されてきた校長の実践発表等を行い、自校の学校運営の参考に行っている。なお、本年度の研究課題は「豊かな人間性を育むカリキュラムマネジメント」道徳教育の充実に向けた校長のリーダーシップについて」である。

周南市では、目標としているまちづくりに向けて、子どもたちの豊かな人間性を育むため、市内各小学校で道徳教育の充実をめざした研究に取り組んでいる。校長会では、「道徳教育の充実に向けた校内体制の整備」によりよ

い道徳授業づくりに向けた取組」「家庭・地域との連携」の三つの視点から道徳教育充実の具現化に迫ることとした。研修は、研究部・対策部・調査部・広報部の四つの専門部会からなり、教職員及び児童・保護者の意識調査やそれを基にした取組等について協同実践し成果を共有することで、今後の取組の充実を図りたいと考えている。また、道徳教育の充実に向けた校長の役割を明確にし、リーダーシップの在り方について研修を深め、資質向上を図っている。

本支部の研究は、平成二十六年度山口県小学校長会秋季教育研究大会及び平成二十七年全国連合小学校長会山口大会において提案される。今後市内三十校が連携を密にし、子どもたちの豊かな人間性を育むための道徳教育の充実をめざした実践を進めていきたい。



(四熊小学校 松林光司)

ファーストペンギン

下関市立生野小学校長

藤井俊亮



ファーストペンギンという名前を、聞いたことがあるだろうか？

ファーストペンギンと言っても、コウテイペンギン等の、ペンギンの種類を分類する名称ではない。数多くいる仲間のペンギンに先んじて、真つ先に氷上から海に飛び込むペンギンのことをこう呼ぶそうだ。

ペンギンは氷上にいる限り、天敵も少なく、比較的安全に生活できる。しかし、ペンギンの餌となる魚は、海中にしかおらず、仲間がそろって餓死しないように、一羽が自らの危険を顧みず、様々な危険が待ち受ける海に飛び込まなくてはならない。ファーストペンギンが海中に飛び込み、安全が確認できると、他の仲間も次々と海に飛び込むそうである。

リーダーの重要な役目の一つに、ファーストペンギンのこのような行動があげられると思う。失敗を恐れず、自ら率先垂範し、子どもや家庭、また学校や教職員、地域のために行動をおこななければならぬこともあるだろう。新任校長となった今、組織を預かる最高責任者として、危険や困難に最初飛び込むファーストペンギンでありたいと思う。

新校長の声

できることを精一杯に

周南市立八代小学校長

中田みゆり



歴史と伝統のある周南市立八代小学校に校長として着任した。八代は、標高360mの高さに位置する本州唯一のナベツルの越冬地である。ナベツルは国の天然記念物にも指定され、地域をあげてその保護活動に取り組んでいる。築57年の校舎には、ナベツルとともに歩んできた足跡が随所に残されている。来校される地域の方も、ナベツルに関する学習の思い出を話される。ここは、ナベツルを中心に地域が一つにまとまり、地域と学校とがつながっている。

八代盆地の寒暖の厳しい気候や自然の中では、絶滅危惧種に指定されている生き物が今もたくさん生息している。八代小学校でも、ナベツルだけでなくギフチョウやタガメ等の飼育保護活動も行っている。どの取組にも長い歴史が刻まれていて八代小には欠かせない取組になっている。

人々のつながりや生き物を大切に守ってこられた地域で育つ子どもたちは、素直で温かく、心がとても安定している。子どもたちが、ふるさと八代に誇りをもち、心豊かにたくましく成長してくれることを願って、保護者や地域の皆さまと共に、私にできることを精一杯やっついこうと思っています。